

第5・6学年学級活動（1）指導案

平成30年 月 日（ ） 校時
年 男子 名 女子 名 計 名
指 導 者

1 議 題

「ウミガメ放流会で、ウミガメの命の大切さを発信しよう！」

2 議題について

本校は、地域と共にウミガメの保護活動をしており、昨年度、ウミガメの放流会に来られた方に、「ウミガメガイド」として、総合的な学習の時間に調べたことを発表する活動をした。今年度は、「本当のウミガメガイド」になるために、事前に学級活動(3)の学習でウミガメ保護研究会の方をゲストティーチャーに招き、ウミガメの命の大切さや責任をもって保護活動に取り組んでほしいという願いを話していただいた。子どもたちは、話を聞かせていただいて、「もっと責任をもって取り組もう」という気持ちが高まってきている。そして、放流会の時に、ウミガメの命や豊かな自然を守ることの大切さを、松ヶ浦から鹿児島県内外にも広く発信しようと考えた。さらに、ウミガメの保護活動を通して、松ヶ浦全体をもっと元気いっぱいにしたいという提案から「ウミガメ放流会で、ウミガメの命の大切さを発信しよう！」という議題を設定し、話し合いを行うことにした。

今回選定した議題を実践することにより期待される意義として、次のようなことが考えられる。

- ・ウミガメの命の大切さや自然環境を守ろうとする取組から生命の尊さや自然愛護などの道徳的価値が高まる。
- ・ウミガメの保護活動の重要性に気付くことで、保護員（地域）の一員として責任をもって主体的に行動しようとする態度が養われる。
- ・ウミガメの命や自然を守ることの大切さをどのような方法で発信するかを考えることで、自分の気持ちを伝える力が養われる。

3 指導に当たって

事前の活動では、多くの命を守り抜こうとする人間の姿の尊さを感じさせ、生命を尊重しようとする心情を育てることをねらいとして、道徳科の授業を行う。また、学級活動(3)として、ゲストティーチャーにウミガメ保護研究会の方を招き、ウミガメの命や豊かな自然を守ることの大切さについて考えさせる。さらに、ゲストティーチャーのアドバイスから、自分たちがウミガメ保護の一員として、責任をもって主体的に活動することを意思決定させる。このように、道徳科や学級活動(3)で生命の尊さや自然愛護の道徳的価値を高めることで、自分たちがウミガメの命の大切さを発信しなくてはならないという必要感をもたせるようにしておく。

話し合いでは、これまでの学級会のふり返りで課題が残った項目を基に、全体のめあてと共に個人のめあてをもたせることで、問題意識をもって話し合いに参加できるようにしておく。また、話し合いの論点がずれないように学級目標や、提案理由、キーワードを常に見える位置に掲示しておき、意識しながら話し合わせるようにしたい。

事後の活動では、今後の自治的な活動を促すために、準備を整えるまでのスケジュールを立てたり、係ごとに責任者を決めたりして、できるだけ主体的に活動できるように促していきたい。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

	知識及び技能	思考力、表現力、判断力等	学びに向かう力、人間性等
計 画	計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など効率的な進め方を理解している。	議題について自分の考えをもち、効率的な計画委員会の運営や話し合いの活動計画について考え、準備している。	学級や学校の充実と向上に関心をもち、計画委員会の活動や話し合いの準備などに活発に取り組もうとしている。
話 合 い	計画委員会の仕事の内容や効率的な話し合いの進め方を理解している。	活動計画に基づき、よりよい学級や学校の生活づくりに向けて考え、判断し、建設的に話し合っている。	司会や記録の仕事、話し合いに活発に取り組もうとしている。
実 践	決定したことについて、みんなで効率的に実践することの意義や方法について理解している。	自他の役割や立場、創意工夫などについて考え、信頼し支え合って実践している。	決定したことについて、活発に準備や計画に取り組もうとしている。

5 活動の活動

	日時	児童の活動	指導上留意点
事前の活動	6／14 道徳（3校時）	・命を守るためにはどんな気持ちが大 切かについて話し合う。	・主人公の命に対する考え方に共感させ、普段の生 の中で、自他の生命を大切する心情を育む。
	6／18 学級活動3ーイ （4校時）	・ウミガメ保護員の方の話を聞いて、本当のウミガメ博士になるた めの意思決定をする。	・ゲストティーチャーの話から、自分の役割や責 任、自他のよさを考えさせ、意思決定やアドバイ スができるように指導する。
	6／18 昼休み 帰りの会	・議題を選定し、役割を決める。 ・提案理由を考える。 ・選定結果を知らせる。	・みんなが理解できる提案理由になるように提案者 に助言する。 ・選定した議題について全員に知らせ承認を得る。
	6／19 昼休み	・キーワードを決める・学級会ノー ト作成する。 ・計画黒板で話し合うことを伝える。	・提案理由から話し合うときのキーワードを決めさ せ、話し合いに必要感をもたせるようにする。
	6／20 昼休み	・全員の学級会ノートに目を通す。 ・計画黒板に全員の意見を書く。	・話し合いの見通しがもてるようにする。 ・実践がイメージできるように必要に応じて補足させる。
	6／25 昼休み	・めあて、キーワード、決まってい ることを、短冊カードに書く。 ・提案理由を板書する。	・板書計画を基に、短冊カードなどを準備させる。
	6／25 学級活動(1) 3校時	・話し合いのシミュレーションをする。 ・学級全員で話し合い活動の準備をす る。(板書)	・全員で準備させ準備後に、学級会の学習過程を説 明することで、話し合いへの意欲を高めることがで きるようにする。
本時の活動	6／25 (本時)	・提案理由やキーワードなどに沿っ て活発に話し合う。 ・どんな工夫ができるかについて話 し合う。	・論点のずれを修正する。 ・活動意欲を高めるような言葉かけをする。
事後の活動	6／26 昼休み	・決まったことを掲示板に掲示する。 ・係の役割分担をする。	・決まったことの要点をまとめて書けるように助言 する。 ・分担し、協力して活動できるようにする。
	6／27～ 休み時間	・係ごとに計画的に活動を進める。	・実践する際に新たな課題が生まれた場合は、再度 話し合いの場を設けるなど、よりよい取り組みに する。
	8月中旬予定	・「ウミガメの放流会」 ・実践活動終了後、感想を記入する。 ・今後の活動について話し合う。	・自発的、自治的に取り組んできたことを称賛し、 がんばりを価値付け、今後の活動意欲を高める。

4 本時の活動

(1) 目 標

ウミガメ保護の一員として、放流会で、ウミガメの命の大切さを発信するために、自他の思いを大切にしたい活
発な話し合いができるようにする。

(2) 指導に当たって

事前に、学級会ノートに、ウミガメの命の大切さを発信するために、何をするかについて各自の意見を書かせて
おくことで、一人一人が自分の考えをもった上で話し合いに臨むことができるようにする。また、前もって自分の意
見を短冊カードに書かせておくことで、練り合う時間を十分確保できるようにする。さらに、計画黒板にそれぞ
れの意見を書かせておくことで、事前に友達の考えを知ることができ、新たな考えやアイデアが生み出されたり、個
別に質問をしたりすることができるようにしておく。

「話し合い」では、より必要感をもって話し合うことができるようにするために、以下の三つの手立てを講じてい
く。一つ目は、「先生の話」の際に、事前に行った道徳科の授業や学級活動(3)の授業を振り返るための写真と実際
にウミガメ放流会を行う四角場浜の映像を視聴させることで、活動意欲を高めさせる。二つ目は、三つのキーワ
ード（「ウミガメ保護の一員」・「ウミガメの命」・「元気いっぱい松ヶ浦」）を掲示し、論点がずれないようにす
る。三つ目は、学習過程の「比べ合う」であっても、心配なことに対するアイデアなどで、みんなの意見が強く
合意した場合、「まとめる」を待たずに決定させるなど、柔軟な形で話し合わせるようにする。

振り返り際には、自分たちで決定したことを最後までやり遂げることの大切さを伝えとともに、松ヶ浦地区
を大切に思う気持ちや放流会でウミガメの命の大切さを伝えたいという態度を称賛し、実践への意欲付けを図るよ
うにしたい。

(1) 本時の展開

第3回 5・6年「ミラクル会議」 月 日 () 司会 () 副司会・黒板 ()		
議題 「ウミガメ放流会でウミガメの命の大切さを発信しよう！」		
提案理由 これまでぼくたちは、ウミガメ博士を目指して、ウミガメ保護活動について学んできました。でも、ウミガメ保護委員会の方の話を聞いて、ウミガメの命を守るためには、もっと、たくさんの方と一緒にウミガメを守っていかないといけないと思いました。そこで、放流会の時に、ウミガメの命の大切さを、みんなで協力して発信することで、ウミガメを保護することの大切さが松ヶ浦全体に広がり、元気いっぱい松ヶ浦になるのではないかと思います。そうすることで、ぼくたちの友情の絆も深まるし、これまで以上に一人一人が輝くのではないかと思いますから提案しました。自分たちの力でキセキを起こしたいです。		
話し合いのめあて 「みんなの話をよく聞いて活発な話し合いにしよう。」		
話し合いの流れ	・予想される子どもの意識	○手立て □目指す子どもの姿
1 はじめの言葉 2 エンカウンター 3 係の紹介 4 議題の確認と提案理由の説明 5 めあてと話し合うことの確認 6 先生の話	・今日の話合いも自分の意見が言えるようにがんばるぞ。 ・しっかりと意見をまとめられるように頑張るぞ。 ・提案理由は、みんなに分かりやすく、はっきりと伝えるぞ。 ・みんなどんな意見を言うのかな。楽しみだな。 ・賛成の意見に対しては、うなずきながら聞くことを心がけよう。	○ 必要な板書準備は予め書いておくように計画員会に準備させておく。 ○ 全体のめあてとともに、個人の意見もノートに記入させることで、主体的に話し合いに参加できるようにする。 ○ 昨年度のウミガメの放流会の動画を見せて、どのようなものが良いか、イメージをもたせると共に、意欲を高めることができるようにする。また、決定についての条件を与えるようにする。
7 話し合い (1) 何をするか (2) いつまでに、だれがするのか？	・ウミガメの命の大切さをどうやって伝えようかな。 ・清掃活動してきれいな浜にしよう。 ・ポスターを書いて伝えようか。 ・チラシはどうだろうか。 ・メッセージを書いて、来た人に渡したらいいね。 ・パンフレットを作って伝えようかな。 ・放流会の進行を自分たちでできないかな。 ・みんなの考えはどれもすごいな。 ・パンフレットは、わたしたちが担当したいな。 ・ポスターは、〇〇さんが適任だと思います。 ・清掃活動はみんなでしょう。 ・ポスターは公民館に掲示できるか相談してみよう。 ・メッセージは早めにみんなで準備しておかないと。 ・放流会に来た人にちゃんと伝えるように責任をもたないとね。 ・放流会が楽しみになってきたぞ。	○ 提案理由やキーワードをもとに意見が言えるようにしていくために、「意見を言う際、理由付けを行うこと」「キーワード」を学級全員が再度確認できるようにする。 ○ 出し合うタイムでは、説明が必要な人だけにし、時間短縮を図る。 ○ 出されたアイデアは、黒板に書かせるようにし、全員がその意見について考えることができるようにする。 学 活発な話し合いになるよう、友達の意見をうなずきながら共感的に聞いている。 知 論点がずれないように、今何が話題になっているかを必要に応じて確認しながら話し合いを進めている。 思 出てきた意見に対して、提案理由や活動のねらい等、キーワードに照らし合わせて建設的な質問をしたり、アイデアを出したりしている。 ○ 話し合いの内容を振り返ることができるように学級会ノートに記録させる。
8 決まったことの確認 9 振り返り 10 先生の話 11 おわりの言葉	・〇〇さんは、友達の意見を参考に、新しい考えを出してくれたね。 ・友達の発表の時に、うなずきながら話を聞くことができたぞ。 ・提案理由やキーワードを基に活発に話し合えたぞ。 ・決まったことは、みんなで協力して準備していきたいね。 ・本当のウミガメ博士になるぞ！	思 話し合いにおいて自他のよさや課題を振り返っている。 ○ 子どもの自己・相互評価の状況を見て回り、付けたい力につながる発表を称賛し、認めていくようにする。 ○ 自分たちで考えた取組を自治的に活動できるように意欲付けを行う。